

「令和2年度広島県高等学校総合体育大会代替大会実施上の感染拡大予防ガイドライン」並びに日本陸連「ロードレース再会についてのガイダンス」に基づく中国中学校《男子第81回・女子第30回》駅伝競走大会に向けての事前・当日・事後の感染拡大予防の取り組みについて

現在、広島県内の陸上競技大会に関わる感染拡大防止のための取り組みも、「学校の新しい生活様式」（文部科学省）、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」（スポーツ庁）及び日本高等学校野球連盟が作成した「新型コロナウイルス感染症防止対策ガイドライン」等を踏まえ、現段階で得られている知見等に基づいて作成された「令和2年度広島県高等学校総合体育大会代替大会実施上の感染拡大予防ガイドライン」に基づいています。

今後の知見の集積及び新型コロナウイルスの感染状況により逐次見直すことがあり得ることに御留意ください。

1 大会実施に当たっての基本的考え方について

大会の実施に当たっては、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～」(文部科学省)及び令和2年5月22日教育長通知「県立学校における学校再開について」を踏まえ、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」(スポーツ庁)、「スポーツイベント再開に向けた感染予防ガイドライン」(公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会)及び「都道府県独自の試合・大会新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」(公益財団法人日本高等学校野球連盟)等を参考に、「広島県新型コロナウイルス感染症対策専門員会議」の助言を得て、次の大会実施に当たっての基本的な考え方にに基づき、さらには、日本陸連「ロードレース再会についてのガイダンス」も参考に新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じることとする。

【大会実施に当たっての基本的な考え方】

- (1) 感染源を絶つ
- (2) 感染防止の3つの基本
 - 身体的距離の確保
 - マスクの着用
 - 手洗いの徹底
- (3) 3つの「密」(密閉空間, 密集場所, 密接場所)の回避
- (4) 安全な活動環境等の確保

2 大会実施時の感染防止策について

(1) 感染源を絶つ

- 主催者は、風邪の症状(発熱, 咳, 鼻汁, 咽頭痛, 頭痛等)がある生徒や引率者等は、大会に参加させないことを徹底する。
- 主催者は、各校の生徒及び引率者等の2週間分の体調を記録した体調記録表(様式B)の記録を求め、健康管理を徹底する。
- 主催者は、大会当日受付時等に、学校(チーム)同行者体調記録表(様式C)の提出を求め、

生徒や引率者等の体調を確認するとともに、大会中、生徒や引率者等に体調不良がある場合は、大会本部に申し出るよう場内アナウンス等で確認を促す。

- 主催者は、学校（チーム）同行者体調記録表（様式C）に記載された者以外の来場者に対し、来場者体調記録表（様式E）に、氏名・年齢・住所・連絡先（電話番号）・検温した体温・来場前2週間におけるア：平熱を越える発熱，イ：咳や喉の痛みなど風邪の症状，ウ：だるさ（倦怠感），息苦しさ（呼吸困難），エ：味覚や嗅覚の異常，オ：過去14日以内に政府から入国制限や入国後の観察期間を必要とされている国や地域などへの渡航歴及び当該在住者との濃厚接触の有無の確認と，来場後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は，主催者に対して速やかに報告することを確認する。
- 引率者等は，集合時，更衣後，ウォーミングアップ終了後，試合前後，昼食時，解散時等，こまめに，生徒の体調不良の有無を確認する声かけを行うなど，集合時から解散時まで生徒の健康観察を徹底する。
- 主催者及び引率者等は，大会中に，生徒等の体調不良を確認した場合，大会救護係や医療機関及び保護者等と連携し，当該生徒の体調を確認するとともに，安全に帰宅させるなどの対策を講じる。

(2) 感染防止の3つの基本

ア 身体的距離の確保

- 開会式等は実施しない。また，抽選会は，必要最小限の人数によって代理抽選とする。
- 主催者は，引率者会議等を実施する場合，人と人との間隔が，できるだけ2メートル（最低1メートル）空くよう，椅子の配置を広くするなどの工夫をする。
- 引率者等は，集合時，待機中，休憩中及び食事中などにおいて，生徒同士の間隔が，できるだけ2メートル（最低1メートル）空くように指導する。
- 主催者，指導者等は，対戦相手や審判等との握手，仲間と手をつないだり肩を組んだりして行う円陣，ハイタッチなどの実施を制限する。

イ マスクの着用

- 主催者は，生徒，引率者等及び大会関係者に，マスク等を準備させ，大会中は，競技等実施時及び食事中等を除いて，基本的にマスク等を着用し，咳エチケットを徹底するよう指示をする。ただし，活動中や気候の状況等より，熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は，マスクを外すよう生徒に指導する。
- マスク等を着用して運動を行う場合には，同じ運動であっても，体へ高い負荷がかかり，低酸素症や熱中症などのリスクが高まるため，主催者や引率者等は，会場の気温や湿度に注意しながら，生徒の健康観察を行うとともに，こまめに給水をさせる。その際，給水用のコップ等を共用させない。

ウ 手洗い等の徹底

- 主催者は，生徒，引率者等及び大会関係者が，こまめに手洗いを行えるよう，利用する施設と連携し，手洗い場に十分な量の石けん等を設置するとともに，場内アナウンス等で，生徒や引率者等に手洗いを促す。
- 主催者は手洗い場等に「手洗いは30秒以上」の掲示をし，手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を準備する。
- 引率者等は，集合時，更衣後，ウォーミングアップ終了後，試合前後，昼食前後，解散時等，こまめに，流水と石けんで手洗いを行うよう，生徒に指導する。

(3) 3つの「密」(密閉空間、密集場所、密接場所)の回避

- 原則、無観客試合とする。なお、試合会場への入場は、出場選手として登録された生徒、引率者及び大会関係者のみとし、出場選手として登録されていない部員やマネージャーの入場については、利用する会場や施設の状況、各専門部の加盟生徒数等を考慮し判断する。
- 主催者は、試合会場を複数設けるなどし、生徒、引率者等の会場への移動が短縮できるよう工夫する。
- チームでまとまって会場へ移動する場合、引率者等は、バス等の車内が、密閉空間にならないよう、運転手と連携し定期的に換気をしたり、1台に乗車する人数を減らしたりするなどの工夫をする。
- 主催者は、更衣室で生徒が密集しないよう、一度に利用できる人数を制限し明示する。また、更衣室内に生徒同士の間隔ができるだけ2メートル(最低1メートル)空くよう目印テープを貼付するとともに、更衣室の換気扇を常時運転したり、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。
- 主催者は、屋内で実施する競技において、会場内で人が密集しないよう、一度に会場に入れる人数や学校数等を制限するなどの工夫をする。
- 主催者は、屋内で実施する競技において、1時間に2～3回程度、会場のドアや窓を開け換気を行うなどの工夫をする。その際、試合会場の窓等の開閉が困難な場合は、利用する施設と連携し、換気施設を適切に運転する。この場合においても、1時間に2～3回程度、会場の入口等を開け換気を行うなどの工夫をする。
- 主催者及び引率者等は、試合会場のベンチや食事をする場所について、できるだけ2メートル(最低1メートル)空くよう、生徒同士の間隔を取らせ、対面をさげ、会話は控えるよう指導する。

(4) 安全な活動環境等の確保

- 試合に関わる全ての者(大会役員、審判、指導者、部員)は、試合が開始される2週間前からの行動を、行動履歴書(様式D)に記録する。
- 主催者は、参加校に対し大会の主旨、感染拡大予防ガイドラインを周知徹底する。顧問等は、大会に参加する生徒及び保護者に対し、参加に当たっての注意事項等を事前に説明し、**保護者同意書**を提出させる。その際、大会申込期日までに定期健康診断の実施が行なわれていない学校の生徒については、各自で健康診断を受診するなど保護者の責任のもと健康上問題がないことを確認したうえで参加させる。
- 引率者以外の競技役員は、来場者体調記録表(様式E)を大会期間中毎日、役員受付時に提出する。
- 社会体育施設を利用して大会を実施する場合は、「社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」(スポーツ庁)に則り運営する施設を選定し、感染拡大予防対策について、事前に施設と打合せを行う。また、学校施設を利用して大会を実施する場合は、令和2年5月22日付け教育長通知「県立学校における学校再開について」等に基づき、感染拡大予防対策について、事前に、会場となる学校の教職員と打合せを行う。
- 主催者及び生徒・引率者等は、大会に向けて適切な感染防止策を行うため別紙「陸上競技大会実施時の感染防止対策チェックリスト」に沿って行う。

3 各競技特性に応じた感染防止策

※ 大会に関係する全ての人に周知徹底してください。

< 陸上競技 >

1 感染防止対策を講じる

(1) 3密を回避（密閉・密集・密接）する

- ・ソーシャルディスタンス確保の工夫（部屋のレイアウト変更）
- ・室内換気の確保
- ・集合時間をずらした行動 など

① 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）の対策

陸上競技場諸室／屋内練習場／更衣室内の室内換気を徹底する。

② 密集場所（多くの人々が密集している）の対策

陸上競技場諸室／招集所／雨天時室内練習所／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数に制限する。

③ 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）の対策

陸上競技場諸室／チームベンチ／スタート待機所／フィールド待機所において、ソーシャルディスタンスを確保できる使用人数で制限すること。また物品の受け渡しは極力避け、避けられない場合は、手指消毒をする。

(2) 競技者に対し実施する

① 競技者に対し競技会2週間前からの検温を義務付け、指定の体調記録表（様式B）に記載し、受付時に学校（チーム）同行者検温確認表（様式C）にまとめ、提出させる。

主催者は学校（チーム）同行者検温確認表（様式C）を提出していない学校（チーム）を、出場不可とすることができる。

② 疑わしい競技者がいた場合は、その場で検温を実施し、状況により参加を許可しない。

③ マスク着用の義務（運動時を除きマスクの着用を義務とする）を競技会大会要項に記載する主催者はマスクをしていない人に対し注意を促す。

④ 手洗い・手指消毒・洗顔をかかさぬよう注意喚起する。

(3) 室内清掃・消毒の準備を整える

(4) 審判員と選手の動線をできる限り分ける

2 対象者毎の配慮事項

(1) 共通事項（主催者は競技会に関わる全ての人に以下の内容を伝える）

① 日々の体調管理を怠らず、検温を行い、万一体調不良や平素より高い体温が認められる場合は参加しない。

② マスク着用、手洗い・洗顔をかかさぬ。

③ 3密回避行動を心掛ける。

④ 競技会の規模、目的に応じて参加資格に制限をかける。

- ・参加資格記録等でレース数、組数の調整をする。
- ・参加者数に応じた審判員を委嘱する。（年齢も考慮する）

(2) 競技者（要項・プログラム等に記載する）

① 競技者の体調記録表（様式B）をチームの代表者が学校同行者検温確認表（様式C）に取りまとめて主催者に報告・提出する。

② ウォーミングアップは密を避け、個別に行う。

- ③ 競技用具使用前後は手洗いをする。
 - ④ 更衣室の滞在は短時間にする。
 - ⑤ 運動中につばや痰を吐かない。
 - ⑥ 体液の付着したゴミは自己責任でビニール袋に密封し処理(基本的に持ち帰り)する。
- (3) 主催者/競技役員 (以下を伝え、必要に応じ委嘱状・マニュアル等に記載する)
- ① 主催者は文書・メール等を活用し、事前打ち合わせを減らす工夫をする。
 - ② 主催者は参加者数に応じた審判員を委嘱する。
 - ③ 主催者は新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい 65 歳以上の競技役員には出来る限り委嘱しないこととする。
 - ④ 新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患(糖尿病, 心不全, 呼吸器疾患, 高血圧, 透析を受けている者, 免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方等)を持っている者は委嘱を受けた後速やかに主催者に申し出て競技役員を辞退する。
 - ⑤ 主催者・競技役員は競技者との接触を減らす工夫をする。
 - ⑥ 競技役員は3密の回避行動を心がけ、マスクの着用, 眼鏡(サングラス可), 手袋(緊急時にすぐ着けられるように携帯する)を用意する。
- (4) チーム関係者・応援者(事前通知及び当日会場内でアナウンスし注意喚起をする)
- ① 競技場客席, 競技場共有エリアでは3密を防ぐためチーム関係者など待機スペースとして使用することを許可する。
 - ② 声を出しての応援, 集団での応援は行わない。
 - ③ 競技者に付き添う場合は, 必ずマスクを着用し, 競技者とソーシャルディスタンスを確保するとともに, 接触および会話に注意する。
 - ④ 混雑を回避するため, 競技者に付き添う者のウォームアップ場への立ち入りを禁止する。
- ### 3 競技種目毎の配慮事項
- (1) 競技運営・種目共通の配慮事項
- ① 3密を回避できる1日の競技会の参加人数を設定する。
参加人数制限やレース間隔は行う競技会の特性によるため, 実施する競技種目により, 運営内容について検討する必要がある一方で, 感染防止策が取れる方法で, 実施する競技種目を決定するという方法もある。どちらを選ぶかは主催者の判断とする。
 - ② スタート待機及び招集時間を分割し密集を防ぐタイムテーブルを設定する。
 - ③ 競技開始前(招集～スタート地点での待機)
3密の回避として, 招集時刻を分散化(細分化)し, 招集所は競技者同士の距離はソーシャルディスタンスを確保し, 手続きの簡略化(滞在時間の短縮)を行う。
 - ④ 滞在時間の短縮のため選手紹介は簡略化する。
 - ⑤ 競技中・フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者のケアについては, 防護体制を整えたスタッフで対応する。
 - ⑥ レース後は, 手洗いへ直行する動線を確保し, 手洗い・洗顔を徹底するように促す。
 - ⑦ 中長距離レースについては, 他の種目と同様, 上記③～⑥を徹底し, スタート整列時に接触しない人数でレースをすることを基本とする。
 - ⑧ 記録発表については, 掲示板の前に人だかりができないように掲示場所の分散化やWebを活用した発表をするなどの工夫をする。
 - ⑨ 開会式・閉会式・表彰式は原則, 実施しない。
- (2) トラック種目の配慮事項
- ① 2～3組ずつスタート地点に誘導し, 待機場所にゆとりを持たせる(ソーシャルディスタンスの確保)。
 - ② フィニッシュ後に長時間止まることを防止する。

- ③ マスクは招集中・移動中・待機中は着用してもらうよう指導する。あわせてマスク着用による熱中症についても注意喚起する。
 - ④ 給水の競技役員・補助員は競技開始前に改めてアルコール等で手指を消毒し、マスクや手袋、フェースシールド（またはゴーグル）等を着用する。
 - ⑤ 混成競技者控室は原則設けない。
- (3) フィールド種目の配慮事項
- ① 待機場所における選手同士のソーシャルディスタンスを確保し、競技役員は注意を促す。
 - ② 投てき器具やすべり止めを共用禁止にする必要はない。
競技中に不用意に手で顔を触らぬように注意をすることで対応する。あわせて、競技終了後に手洗い・洗顔を実施させる。跳躍種目における着地マットや砂場も同様である。
 - ③ コーチがスタンドから下に向かって話す際は、マスク着用の上、ソーシャルディスタンスを確保して、話すよう注意する。
 - ④ 助走練習、投擲練習時に並ぶ時はソーシャルディスタンスを確保するか、あるいは競技役員が1人ずつ順番に呼び出す形式をとる。
 - ⑤ 選手同士の会話は極力避け、待機中はマスクを着用するよう注意喚起を促す。
 - ⑥ 競技役員・補助役員の手旗、パソコン、計測器などの共用は極力避けるが、共用する場合には、使用前後に手洗い、機器の消毒を行う。

4 施設における配慮事項

(1) 施設入場時の配慮事項

- ① 競技役員及び競技者受付所など、対面して受付を行う場所にシールド（透明なシートなど）を設置する。
- ② 受付やゲートにて、体調不良が疑われる者に検温を実施する。
- ③ 手指消毒剤を提供する。
- ④ ソーシャルディスタンス確保の呼びかけを行う。（整列に必要なマークの設置）

(2) 施設利用上の配慮事項

- ① 常時換気を実施する。（窓開け・戸開けの実施）
- ② 諸室・招集所などの座席配置を工夫する。（ソーシャルディスタンスの確保）
- ③ 拡声器・通信機器を利用する。
- ④ 直接の接触回避の工夫を行う。
- ⑤ 多くの者が接触する可能性がある箇所の清掃（消毒）頻度を増加する。
（施設所有者・管理者に確認すること）
- ⑥ 雨天時の待避場所の確保・終了後、施設・設備・用器具の清掃・消毒を行う。
- ⑦ トイレの清潔化を徹底する。（便座の蓋をしてから流すことを徹底する）
- ⑧ 喫煙所を設置しない。
- ⑨ ゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスをする。
- ⑩ 発熱者が出た場合の、隔離用の部屋を確保する。（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションで仕切ったコーナーを用意する）

(3) ウォーミングアップ会場の配慮事項

- ① ソーシャルディスタンス確保の工夫をする。
- ② トレーナーステーションは設置しない。
- ③ ウォーミングアップ会場への付き添い・観戦を禁止する。

5 メディア・取材への配慮事項

(1) 主催者の対応事項

- ① 大会主催者は報道各社向けの大会取材要項を作成し、メディアの履行義務事項などを記載し、取材の事前申請を受け付ける。事前申請のない競技会では、大会 HP やプレスリリースを通

じて周知する。また、当日の受付でも「しおり」などをもとに確認・徹底する。

(2) 取材人数について

- ① 会場（取材エリア／ミックスゾーン／撮影エリア／プレスルームなど）の規模により人数を設定し制限すること。（例）1社1名（取材・撮影兼務）or 取材／撮影 各1名 など

(3) 取材方法について

- ① ADカードまたはビブスを用意して報道取材者を管理する。
- ② 報道受付では事前に用意した体調管理表の提出を求める。
- ③ ミックスゾーンを設置する場合は柵などでソーシャルディスタンスを確保し、3密を防ぐ。
- ④ 囲み取材・インタビューは、競技者同意のもとソーシャルディスタンス（競技者と取材者および取材者同士の距離）を確保し実施する。

(4) 取材・撮影エリア

- ① 撮影エリアはソーシャルディスタンスで区切る。
または、主催者が設定した撮影エリア内でのソーシャルディスタンスをカメラマン同士で調整するよう促す。

(5) 報道取材者の協力事項

- ① 取材時のマスク着用を義務づける。
- ② 会場内では手洗いや咳エチケットなどの実施を心がける。
- ③ 取材人数・取材方法・取材エリアを遵守する。
- ④ クルーを少人数化する。

以上のように、現在、県内の陸上競技大会も、すでに高体連が示されている「令和2年度広島県高等学校総合体育大会代替大会実施上の感染拡大予防ガイドライン」に則って、大会準備、当日運営を進めていきますので、大会の2週間前までには、それまでに各様式を各関係者に配布し、記入をするようご指示願います。

[]大会に参加する学校・チームの代表の皆様方は、以下の同意書、並びに様式B～Eを確認していただき、大会参加までのフロー図にしたがって各様式の配布・記入・回収・保管をお願い致します。

別紙一覽

<input type="checkbox"/>	【様式A】同意書
<input type="checkbox"/>	【様式B】体調記録表
<input type="checkbox"/>	【様式C】学校（チーム）同行者体調記録表
<input type="checkbox"/>	【様式D】行動履歴書
<input type="checkbox"/>	【様式E】来場者体調記録表
<input type="checkbox"/>	参加校用チェックリスト

